

Media Information

2022年4月3日

2022年 ラウンド1 レース2

ウェットコンディションでも速さをみせた澤龍之介選手が開幕2連勝！

FORMULA REGIONAL JAPANESE CHAMPIONSHIP (フォーミュラ・リージョナル・ジャパニーズ・チャンピオンシップ=FRJ) 2022のレース2決勝が富士スピードウェイで行われ、3号車の澤龍之介選手 (Sutekina Racing) がポール・トゥ・ウィンで開幕2連勝を飾りました。



開幕富士大会の2日目は、前日とは一転して朝から冷たい雨模様となりました。このため、午前9時50分からのレース2は安全を考慮してセーフティカー先導によるスタートになりましたが、2周目のADVANコーナーで3番手スタートだった97号車の小川颯太選手 (Bionic Jack Racing Scholarship FRJ) がスピン。一度最後尾まで後退しましたが、すぐに元のポジションに復帰しました。

3周目を終えるところでセーフティカーがピットに入り、グリーンフラッグが振られましたが、直後のTGRコーナー (第1コーナー) でポールポジションの澤選手がオーバーランをしてしまった他、後続でも何台かのマシンがスピンを喫するなど、波乱の多いレース序盤となりました。

最初にコースオフがあった澤選手はトップを維持したままコースに復帰し、2番手以下を引き離しにかかりました。一方、4周目に2番手に上がった小川選手はセーフティカー中に他の車両を追い越したとしてドライブスルーペナルティが科され、5番手まで後退。

代わって、2番手に浮上した8号車の小山美姫選手（TGR-DC F111/3）が2分00秒台のペースで澤選手との間隔を縮めていき、一時は4.4秒あった差を約2.5秒後方まで迫りました。

小山選手に追われる澤選手には、ピットからの無線で後続が迫ってきているという情報も伝わっており、残り3周というところでラストスパートを開始。12周目には1分59秒968のファステストラップを叩き出し、小山選手との差を再び広げました。

当初は15周で争われるレース2でしたが、13周を終了したところでレース時間の上限である30分が経過し、14周でチェッカーフラッグが振られることに。澤選手が最後までトップを守りきり、今季開幕2連勝を飾りました。2位には小山選手、3位には片山義章選手（Team LeMans F111/3）が続きました。

マスタークラスは、クラストップからスタートした11号車、HIROBON選手（Rn-sportsF111/3）が、難しいコンディションの中でスピンやコースオフもなく走りきり、クラス2番手以下に38秒の大差をつけて優勝。クラス2位に4号車、今田信宏選手（JMS RACING with B-Max）、3位に34号車の三浦勝選手（F111/3）が入りました。

◆レース2優勝 澤龍之介選手コメント

「セーフティカー先導でのスタートでしたが、タイヤがなかなか温まらなくて『どれくらいいけるかな?』と思って1コーナーに飛び込んでいきましたが、止まり切れませんでした。その後もトップを走っていましたが、周りと比べて自分のタイヤの発熱は不足しているように感じられ、僕もタイヤが温まるような走り方をしていたのですが、なかなか苦しかったです。後ろとの差はチームから常に教えてもらっていて、小山選手が迫ってきているのは分かっていたので、終盤は気合いでプッシュして逃げました。ぶっちぎりでは勝てませんでしたが、2連勝できて良かったですし、このレースで経験できたことは、間違いなくレース3に活かすことができると思います。3連勝を目指していきます」

◆レース2 マスタークラス優勝 HIROBON選手コメント

「フォーミュラで雨のレースは、これが初めてでした。前が何も見えなくて、グリップもないので、全然アクセルを踏めませんでした。けっこうスピンやコースオフをしそうな場面があったのですが、なんとか堪えて……とにかくコースに留まることを一番に考えてレースをしました。3連勝の期待が高まっているので、気が重いところもありますが、次のレースに向けては、もう少し雨のコンディションに対応できると思うので、頑張ります」

以上

